

令和2年度 シラバス

科目名	臨床心理学	講義	(30)時間	前期	第I学科2学年	講師	宮武 麻美
実務経験	心理判定士として20年以上の実務経験あり						
到達目標	心理的問題や不適応行動等の改善援助のために用いられるアプローチ法についての基礎的な知識を身につける						
履修上の注意	講義内容の理解を深めるために受験生による発表の時間を設けます						
成績評価方法	学科試験(70%)・小テスト(30%)						
教科書	下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房						
参考書	あればその都度紹介します						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	イントロダクション	臨床心理学とは
第2週目	心理検査(1)	人格検査
第3週目	心理検査(2)	発達検査、知能検査
第4週目	心理検査(3)	神経心理学的検査
第5週目	心理療法(1)	精神分析、分析心理学
第6週目	心理療法(2)	精神分析、分析心理学
第7週目	心理療法(3)	クライエント中心療法
第8週目	心理療法(4)	行動療法、認知行動療法
第9週目	心理療法(5)	森田療法、内観療法
第10週目	心理療法(6)	遊戯療法、箱庭療法、自律訓練法、集団療法
第11週目	発達臨床心理(1)	生涯発達、乳幼児期～老年期の心理的問題
第12週目	発達臨床心理(2)	知的障害、自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠陥・多動症
第13週目	発達臨床心理(3)	虐待
第14週目	まとめ(1)	第1週目～第13週目の復習
第15週目	まとめ(2)	第1週目～第13週目の復習
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	一般臨床医学	講義	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	和手 麗香
実務経験	医師として21年以上の実務経歴あり						
到達目標	医学一般に関する学識を得る						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	PT・OTのための一般臨床医学 医歯薬出版						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	救急救命学、外科学	救命救急医療、外科総論
第2週目	脳神経外科学	脳神経外科概論
第3週目	皮膚科学	皮膚疾患
第4週目	泌尿器科学	泌尿器・生殖器疾患
第5週目	産婦人科学	婦人科・産科疾患
第6週目	眼科学、耳鼻咽喉科学	眼疾患、耳鼻咽喉科疾患
第7週目	総合診療科学	特殊な医学、プライマリ・ケア
第8週目	まとめ	その他疾患
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	内科学	講義	(30)時間	後期	第 I 学科2学年	講 師	和手 麗香
実務経験	医師として21年以上の実務経歴あり						
到達目標	代表的な内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	標準理学療法学 作業療法学 内科学(医学書院)						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	総論	内科学概論、内科診断学
第2週目	循環器	循環器疾患総論、各論
第3週目	呼吸器	呼吸器疾患総論、各論
第4週目	消化器、肝・胆・膵	消化器疾患、肝・胆・膵疾患 総論、各論
第5週目	血液、代謝	血液疾患、代謝疾患 総論、各論
第6週目	内分泌、腎	内分泌疾患、腎疾患 総論、各論
第7週目	免疫・アレルギー、膠原病	免疫・アレルギー性疾患、膠原病 総論、各論
第8週目	その他	その他の疾患と総復習
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	整形外科学(前期分)	講義	(30)時間	前期	第1学科2学年	講師	岡田 欣之
実務経験	医師として19年以上の実務経験あり						
到達目標	理学療法士として運動器にかかわる疾患の診断と治療、リハビリテーションについて学習、理解する。						
履修上の注意	講義への積極的参加、講義中の発言をしてください。						
成績評価方法	学科試験、小テスト、出席状況・授業態度を含めた総合評価						
教科書	標準整形外科学 第13版 医学書院						
参考書	なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	整形外科学の基礎科学(1)	オリエンテーション、骨の発生・構造および病態生理など
第2週目	整形外科学の基礎科学(2)	関節・骨格筋の構造や病態生理、神経系の基本構造など
第3週目	整形外科診断学総論(1)	運動器の基本的な評価法
第4週目	整形外科診断学総論(2)	神経学的な評価表、検査について
第5週目	整形外科治療学総論(1)	保存療法について
第6週目	整形外科治療学総論(2)	手術療法について
第7週目	疾患総論(1)	軟部組織・骨・関節の感染について
第8週目	疾患総論(2)	関節リウマチとその類縁疾患について
第9週目	疾患総論(3)	退行性・代謝性慢性関節疾患、四肢循環障害疾患について
第10週目	疾患総論(4)	先天性骨系統疾患・先天異常症候群について
第11週目	疾患総論(5)	骨粗鬆症を含む代謝性疾患について
第12週目	疾患総論(6)	骨・軟部腫瘍について
第13週目	疾患総論(7)	神経疾患・筋疾患について
第14週目	疾患総論(8)	ロコモティブシンドローム・サルコペニアについて
第15週目	疾患各論(1)	肩関節・膝関節について
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	整形外科(後期分)	講義	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	岡田 欣之
実務経験	医師として19年以上の実務経験あり						
到達目標	理学療法士として運動器にかかわる疾患の診断と治療、リハビリテーションについて学習、理解する。						
履修上の注意	講義への積極的参加、講義中の発言をしてください。						
成績評価方法	学科試験、小テスト、出席状況・授業態度を含めた総合評価						
教科書	標準整形外科学 第13版 医学書院						
参考書	なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	疾患各論(2)	手関節・手指について
第2週目	疾患各論(3)	頸椎について
第3週目	疾患各論(4)	胸椎・腰椎について
第4週目	疾患各論(5)	股関節について
第5週目	疾患各論(6)	膝関節について
第6週目	疾患各論(7)	足関節・足趾について
第7週目	外傷総論	軟部組織損傷、骨折・脱臼の総論について
第8週目	外傷各論(1)	上肢の外傷について
第9週目	外傷各論(2)	下肢の外傷について
第10週目	外傷各論(3)	脊椎・脊髄損傷について
第11週目	外傷各論(4)	末梢神経損傷について
第12週目	外傷各論(5)	スポーツ傷害について
第13週目	リハビリ(1)	運動器疾患のリハビリテーションについて
第14週目	リハビリ(2)	四肢切断と義足及び補装具について
第15週目	まとめ	整形外科のまとめ
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	神経内科学	講義	(30)時間	前期	第I学科2学年	講師	和手 麗香
実務経験	医師として21年以上の実務経歴あり						
到達目標	神経内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	神経内科学テキスト						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	総論1	神経内科総論、中枢の解剖
第2週目	総論2	診断学
第3週目	総論3	検査
第4週目	各論1	脳血管障害
第5週目	各論2	神経変性疾患、脱髄疾患
第6週目	各論3	末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患
第7週目	各論4	全身疾患に伴う神経障害、中毒
第8週目	各論5、まとめ	機能的疾患、認知症、まとめ
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	精神医学	講義	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	赤津 隆夫
実務経験	医師として17年以上の実務経験あり						
到達目標	精神医学の概要の理解 主要症状、主要疾患の理解						
履修上の注意	毎回小テストを配布するので、それで復習して下さい						
成績評価方法	100% 筆記テスト(客観テスト)						
教科書	各項目毎に配布するプリント						
参考書	精神医学(標準理学療法学・作業療法学)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	分類・症候論 I	精神疾患の分類・症状・検査
第2週目	分類・症候論 II	
第3週目	統合失調症 I	統合失調症の診断・症状・治療
第4週目	統合失調症 II	
第5週目	気分障害 I	気分障害の診断・症状・治療
第6週目	気分障害 II	
第7週目	神経症 I	精神分析・神経症の診断症状治療
第8週目	神経症 II	
第9週目	小児期精神疾患 I	小児期・青年期の精神障害
第10週目	小児期精神疾患 II	
第11週目	睡眠関連障害	睡眠の機構、睡眠障害
第12週目	物質関連傷害	物質関連傷害
第13週目	器質性精神障害 I	症状性精神疾患、器質性精神疾患、認知症
第14週目	器質性精神障害 II	
第15週目	てんかん	てんかんとてんかん発作の分類・治療
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	小児科学	講義	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	田麗
実務経験	医師として9年以上の実務経験あり						
到達目標	1. 正常小児の成長発達を理解する。 2. 未熟児、新生児の病態を理解する。 3. 小児疾患の特性および病態を理解する。 4. 重症心身障がい児の特性と療育について理解する。						
履修上の注意	授業の出席						
成績評価方法	筆記試験						
教科書	学校の指定の教科書						
参考書	無						

週数	項目	授業内容
第1週目	小児科学概論①	小児は、各段階での成長、発育と発達の特徴；成長に当って必要な栄養素及び摂取を理解する。
第2週目	小児科学概論② 診断と治療の概要	①新生児マスキングの重要性を理解する； ②小児の診察と治療の特徴を理解する。
第3週目	新生児・未熟児疾患	①胎児から新生児までの各段階の定義を熟知すること。 ②新生児の特有問題を理解する。
第4週目	先天異常と遺伝病①	遺伝に関する基礎知識を熟知すること； 近年の研究によって新たな知見を理解する。
第5週目	先天異常と遺伝病②	幾つかの染色体異常疾患と代謝異常疾患を理解すること。
第6週目	神経・筋・骨系疾患①	急性神経の感染症と先天性神経疾患を理解すること。
第7週目	神経・筋・骨系疾患②	痲痺の特徴と脳性まひを理解すること。
第8週目	神経・筋・骨系疾患③	①発達障害に関する基礎知識を理解すること； ②筋肉障がい疾患を理解する。
第9週目	循環器疾患、呼吸器疾患	先天性心疾患の特徴を理解すること； 小児の呼吸器疾患の特徴を理解すること。
第10週目	感染症	小児感染症の特徴を理解すること。
第11週目	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	小児の特有消化器疾患を理解すること； 内分泌疾患と代謝障害を理解すること。
第12週目	血液疾患、免疫・アレルギー・膠原病	①血液に関する基礎知識と小児血液疾患の特徴 ②免疫の基本とアレルギーの本質を理解する。
第13週目	泌尿器・生殖器疾患、腫瘍	①泌尿器の基礎知識と小児に発症の多い疾患； ②小児特有の腫瘍を理解する。
第14週目	習癖・睡眠障害・心身症、重症心身障がい児・眼科・耳鼻科	①小児の成長の段階でよく見られる習癖など； ②重症心身障がい児に対して理解する。 ③小児期に発生しやすい眼や耳などの疾患に対する理解をする。
第15週目	期末テストの回答	全員で復習問題を解く。
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	脳神経外科学	講義	(30)時間	前期	第I学科2学年	講師	和手 麗香
実務経験	医師として21年以上の実務経歴あり						
到達目標	脳神経外科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。						
履修上の注意	復習は各自で行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。						
成績評価方法	試験100%						
教科書	標準脳神経外科学						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	総論1	脳神経外科総論、解剖、症候学
第2週目	総論2	検査、症候学
第3週目	各論1	脳腫瘍
第4週目	各論2	脳血管障害
第5週目	各論3	頭部外傷、先天奇形
第6週目	各論4	神経皮膚症候群、水頭症、機能的脳神経外科
第7週目	各論5	脊髄疾患、末梢神経疾患
第8週目	各論6、まとめ	機能性疾患、認知症、まとめ
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	リハビリテーション学Ⅱ	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	音頭 善勝
実務経験	理学療法士として20年以上の実務経験あり						
到達目標	リハビリテーション医学の基礎知識を身に付け、臨床の場で応用できるようにする。						
履修上の注意	出席すること						
成績評価方法	学科試験						
教科書	最新 リハビリテーション医学 第3版						
参考書	随時授業内で紹介する						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション・総論	
第2週目	リハビリテーション(以下リハ)医学・医療の概要	1. リハ医学・医療の成り立ちと発展 2. リハの理念と障害学 3. リハ医療—急性期・回復期・維持期
第3週目	リハ医学・医療の概要 リハ診療	4. 保険・医療・福祉の連携 1. リハ診療の手順
第4週目	リハ診療	2. ADL評価 3. QOL評価
第5週目	リハ診療	4. 障害者心理と障害受容
第6週目	障害の病態生理と評価・治療	1. 廃用症候群
第7週目	障害の病態生理と評価・治療	2. 運動障害 3. 歩行障害
第8週目	障害の病態生理と評価・治療	4. 循環機能障害
第9週目	障害の病態生理と評価・治療	5. 呼吸の障害
第10週目	障害の病態生理と評価・治療	6. 摂食嚥下障害 7. 排尿排便障害
第11週目	障害の病態生理と評価・治療	8. 痙縮・固縮
第12週目	障害の病態生理と評価・治療	9. 加齢による障害(フレイル、サルコペニア)
第13週目	障害の病態生理と評価・治療	10. 発達障害
第14週目	疾患とリハビリテーション	脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患
第15週目	疾患とリハビリテーション	整形外科疾患、悪性腫瘍
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅲ (神経系)	演習	(30)時間	前期	第1学科2学年	講師	門脇 辰弥
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり						
到達目標	神経学的検査の理解と実技の習得						
履修上の注意	実技を行う場合は実習着を着用しておくこと						
成績評価方法	学科試験(中間試験35%・期末試験50%)、出席(15%)						
教科書	ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)						
参考書	理学療法評価学(金原出版株式会社)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	腱反射・病的反射	腱反射・表在反射・病的反射
第2週目	腱反射・病的反射	実技練習
第3週目	感覚検査	表在感覚、深部感覚、複合感覚
第4週目	感覚検査	実技練習
第5週目	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、三叉神経、顔面神経、聴神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経
第6週目	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、三叉神経、顔面神経、聴神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経
第7週目	中間テスト	
第8週目	小脳機能	運動失調
第9週目	小脳機能	小脳障害
第10週目	運動機能	不随意運動、筋緊張、受動運動による徴候
第11週目	運動機能	歩行の異常、検査
第12週目	痛みの評価	疼痛の検査、VAS
第13週目	精神状態の評価	意識障害、認知機能
第14週目	運動麻痺の検査	運動麻痺、片麻痺
第15週目	不随意運動 期末試験の説明	不随意運動とは、期末試験範囲の説明
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅳ (整形外科)	演習	(30)時間	前期	第Ⅰ学科2学年	講師	音頭 善勝
実務経験	理学療法士として20年以上の実務経験あり						
到達目標	運動器に発生する障害を理解し、適切な検査項目を挙げ、その意味・意義を理解して実施できる。						
履修上の注意	実技の時はTシャツ、短パンで行います						
成績評価方法	筆記試験						
教科書	PT・OTのための測定評価 整形外科的検査 三輪書店						
参考書	標準整形外科学(医学書院)、理学療法評価学 改訂第6版(金原出版)						

週 数	項目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	
第2週目	整形外科とは	整形外科と整形外科学、運動器とは
第3週目	一般的理学療法評価	トップダウン過程での評価とボトムアップ過程での評価
第4週目	運動器の評価と検査	1. 基本的評価 2. 基本的検査 3. 形態測定 4. 関節可動域測定 5. 筋力テスト 6. 神経学的評価
第5週目	整形外科的検査①	1. 肩関節
第6週目	整形外科的検査②	2. 肘関節 3. 手関節
第7週目	整形外科的検査③	4. 股関節 5. 膝関節
第8週目	整形外科的検査④	5. 膝関節 6. 足関節
第9週目	整形外科的検査⑤	7. 頸部・体幹、胸郭出口症候群
第10週目	整形外科疾患検査①	末梢神経損傷、循環障害、髄膜刺激症状、下肢アライメント
第11週目	整形外科疾患検査②	脊髄・神経根レベルと神経学的特徴
第12週目	疼痛	脊髄・神経根障害と検査、椎間板ヘルニアと高位診断
第13週目	疼痛	痛みとは、痛みの定義、急性痛と慢性痛、痛みの検査
第14週目	ケーススタディ	痛みの検査、痛みと理学療法、症例検討(変形性膝関節症)について必要な情報並びに実施すべき検査項目を考える。
第15週目	ケーススタディ	痛みの検査、痛みと理学療法、症例検討(変形性膝関節症)について必要な情報並びに実施すべき検査項目を考える。
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習 I	演習	(30)時間	前期	第1学科2学年	講師	森 憲一 佐伯 訓明 是澤 克彦
実務経験	森教員:理学療法士として20年以上の実務経験あり 佐伯教員:理学療法士として10年以上の実務経験あり 是澤教員:理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	impairment × disabilityの関係性を理解、疾患・動作の双方から評価を実施することが出来る						
履修上の注意	教科書・配布資料をもとに授業						
成績評価方法	定期試験(1回)・学科試験100%						
教科書	筋性疼痛症候の臨床観察(上巻)筋の運動作用及び感覚作用視点からの見解						
参考書	都度、紹介						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	骨格筋の基礎知識とその臨床応用①	骨格筋の微細構造と筋収縮機序 感覚器としての骨格筋 疼痛症候の観察とその解釈 痛みの発現機序
第2週目	骨格筋の基礎知識とその臨床応用②	循環障害と感覚器 浮腫と内呼吸 筋力低下と可動域制限 病態理解と治療戦略
第3週目	骨格筋の基礎知識とその臨床応用③	組織の破壊と再生 まとめ
第4週目	呼吸器疾患の基礎知識①	impairmentレベルの追及
第5週目	呼吸器疾患の基礎知識②	impairment × disabilityの関係性を理解
第6週目	脳血管疾患の基礎知識①	impairmentレベルの追及
第7週目	脳血管疾患の基礎知識②	impairment × disabilityの関係性を理解
第8週目	運動器疾患に対する評価	実技
第9週目		
第10週目		
第11週目		
第12週目		
第13週目		
第14週目		
第15週目		
備考	授業進行により、変更があります	

令和2年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅱ	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	吉田 弘利
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	基本動作・歩行を理解し、動作観察ができるようになる。						
履修上の注意	ジャージを着用すること、装飾品は外すこと						
成績評価方法	出席点、授業態度、実技試験						
教科書	動作分析 臨床活用講座						
参考書	なし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	実習報告会	
第2週目	実習報告会	
第3週目	症例レポートの書き方	レポートの手順、統合と解釈とは
第4週目	寝返り	観察、実技
第5週目	寝返り	観察、実技
第6週目	起き上がり	観察、実技
第7週目	起き上がり	観察、実技
第8週目	立ち上がり	観察、実技
第9週目	立ち上がり	観察、実技
第10週目	歩行	観察、実技
第11週目	歩行	観察、実技
第12週目	動作観察(立ち上がり)	立ち上がり動作の動作観察レポート
第13週目	動作観察(歩行)	歩行動作の動作観察レポート
第14週目	実習前演習	検査測定法の復習
第15週目	実習前演習	検査測定法の復習
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	運動療法学	演習	(60)時間	前期	第1学科2学年	講師	門脇 辰弥
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり						
到達目標	基本的な運動療法を理解する代表的な疾患に対する運動療法を理解する						
履修上の注意	実技の際は半袖、半ズボンを着用すること						
成績評価方法	中間試験35%、本試験50%、出席状況15%						
教科書	運動療法学 総論・各論 医学書院						
参考書	配布資料						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	運動療法の概念 運動療法の基礎	運動療法の定義・目的・対象疾患 関節の構造と運動、筋と筋収縮
第2週目	運動療法の基礎	随意運動と運動制御の整理、運動制御と運動学習 運動と呼吸、運動と循環
第3週目	運動療法の基礎 組織の病態生理と修復	運動と代謝 運動器系、神経系
第4週目	運動の種類 基本的な運動療法	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類 関節可動域運動
第5週目	基本的な運動療法	筋力増強運動 持久力増強運動
第6週目	基本的な運動療法	協調性運動 脳のシステム障害と運動療法
第7週目	基本的な運動療法 発達と運動療法	痛みに対する運動療法 正常な運動発達、脳性麻痺の運動障害と運動療法
第8週目	中間試験	中間試験内容の復習と試験
第9週目	骨関節疾患の運動療法	骨折・脱臼の運動療法、膝の靭帯・半月板損傷の運動療法 腱断裂の運動療法、
第10週目	骨関節疾患の運動療法	関節リウマチの運動療法 変形性関節症と人工関節置換術の運動療法
第11週目	骨関節疾患の運動療法	側彎症の運動療法 脳血管障害の運動療法—早期
第12週目	脳傷害の運動療法	脳血管障害の運動療法—回復期 パーキンソン病とパーキンソニズムの運動療法
第13週目	脳傷害の運動療法 脊髄疾患の運動療法	脳外傷の運動療法、脳性麻痺の運動療法 脊髄損傷などの運動療法
第14週目	筋の収縮、筋の伸張	姿勢による筋収縮を考える、筋を伸張するための姿勢を考える(実技)
第15週目	期末試験の説明	期末試験範囲の説明
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	義肢装具学 I	演習	(30)時間	前期	第 I 学科2学年	講 師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	上肢装具、下肢装具、体幹装具について理解する。各疾患に適応する装具について理解する。						
履修上の注意	義肢装具学は国家試験の出題割合が高い科目です。						
成績評価方法	定期試験(100%)						
教科書	理学療法テキスト 装具学 中山書店						
参考書	義肢装具のチェックポイント 医学書院						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	装具の分類	装具の目的分類
第2週目	頸椎装具	SOMIブレース、ハローベストなど
第3週目	胸腰仙椎装具	ジュエット、スタインドラーなど
第4週目	上肢装具	アームスリング、肩外転装具など
第5週目	下肢装具①	プラスチックおよび両側金属支柱付き短下肢装具
第6週目	下肢装具②	膝装具・免荷装具・長下肢装具
第7週目	側弯装具①	側弯装具(ミルウォーキー、アンダーアーム)
第8週目	中間試験	試験範囲: 第1週～第7週
第9週目	整形外科疾患装具	整形外科疾患(腱板損傷等)の装具について
第10週目	グループ発表	小児装具、末梢神経装具について
第11週目	グループ発表	小児装具、末梢神経装具について
第12週目	グループ発表	小児装具、末梢神経装具について
第13週目	小児装具①	ペルテス、先天性股関節脱臼の装具
第14週目	小児装具②	脳性麻痺、筋ジストロフィーの装具
第15週目	末梢神経損傷装具	正中神経・橈骨神経・尺骨神経麻痺の装具
備考	上記はあくまで予定(目安)であり、内容については変更になる可能性がある。	

令和2年度 シラバス

科目名	義肢装具学Ⅱ	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	切断の概要、義足ソケットの種類、異常歩行について学ぶ。						
履修上の注意	義肢装具学は国家試験の出題割合が高い科目です。						
成績評価方法	小テスト 中間試験 定期試験 講義態度 出席状況						
教科書	義肢装具学のチェックポイント(医学書院)						
参考書	理学療法テキスト 義肢学 中山書店						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	義肢学総論①	切断術について(切断者の現況、切断部位、原因疾患など)
第2週目	義肢学総論②	幻肢、幻肢痛について
第3週目	義足の構造	構成要素、種類
第4週目	大腿義足ソケットについて①	ソケットの分類(機能・形状による分類)
第5週目	大腿義足ソケットについて②	四辺形ソケットについて
第6週目	大腿義足ソケットについて③	坐骨収納型ソケットについて
第7週目	下腿義足ソケットについて①	ソケットの分類(機能・形状による分類)
第8週目	下腿義足ソケットについて②	PTBソケット・PTSソケット
第9週目	下腿義足ソケットについて③	KBMソケット・TSBソケット
第10週目	中間試験	試験範囲:切断の概要、義足の構造、ソケットについて
第11週目	アライメントについて	ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント
第12週目	異常歩行について①	大腿義足における異常歩行①
第13週目	異常歩行について②	大腿義足における異常歩行②
第14週目	異常歩行について③	下腿義足における異常歩行
第15週目	まとめ	国家試験過去問題、定期試験範囲について
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	日常生活活動学	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として12年以上の実務経験あり						
到達目標	福祉住環境コーディネーター2級資格取得相当の知識の習得/退院後を見据えた日常生活指導が出来る						
履修上の注意	教科書福祉住環境コーディネーター2級テキスト/ADL教科書/国試対策プリント 3点セットで必ず持参						
成績評価方法	学科試験90% 小テスト10% 授業態度不良者/課題未提出者教科書忘れ減点あり						
教科書	教科書福祉住環境コーディネーター2級テキスト/ADL						
参考書	なし 必要時プリント配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	ADLとは総論と評価	ADLとは 講義の進め方と国家試験について 評価方法の種類
第2週目	★ADL評価種類/国試実践	ADLの評価種類と内容 国試問題の傾向をつかむ
第3週目	住環境整備における基礎知識	福祉住環境整備の実践/相談援助の考え方と環境調整の進め方
第4週目	疾患別ADL 片麻痺	片麻痺のADLと住宅改修のポイント
第5週目	疾患別ADL 脊損	脊損のADLと住宅改修のポイント
第6週目	疾患別ADL パーキンソン病	パーキンソン病のADLと住宅改修のポイント
第7週目	疾患別ADL 神経筋疾患	神経筋疾患のADLと住宅改修のポイント
第8週目	疾患別ADL 認知症/統合失調症	認知症/統合失調症のADLと住宅改修のポイント
第9週目	疾患別ADL 脳性麻痺	脳性麻痺のADLと住宅改修のポイント
第10週目	疾患別ADL 呼吸器心疾患	呼吸器心疾患のADLと住宅改修のポイント
第11週目	疾患別ADL 関節リウマチ	RAのADLと住宅改修のポイント
第12週目	疾患別ADL 人工関節全置換術/下肢骨折	下肢骨折/術後のADLと住宅改修のポイント
第13週目	回復期/在宅におけるADL指導	回復期/在宅におけるADL指導 住宅改修のポイント 家屋調査
第14週目	これまでの復習①	国試試験対策
第15週目	これまでの復習②	国試試験対策
備考	福祉住環境コーディネーター2級申し込み希望者は9月中に希望聴取/集金(6600円)し団体申し込みします	

令和2年度 シラバス

科目名	脳血管障害理学療法学	演習	(60)時間	前期	第I学科2学年	講師	吉田 弘利
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な理学療法の考え方を理解する。						
履修上の注意	私語など他者の迷惑になる行為。						
成績評価方法	試験(小テスト授業中に数回:20%・定期試験:70%)・提出物(10%),欠席(-10点/日)						
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害 理学療法学 I 中山書店						
参考書	適時配布資料あり						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	第1章 中枢神経系理学療法の基礎知識	総論/中枢神経系の構造と基礎知識
第2週目	第2章 運動と感覚の中枢機能と構造	基本的な解剖知識と病巣と症状の関連性
第3週目	第3章 脳損傷の定義と病態	脳血管障害の分類(NINDS-III)による病態説明
第4週目	第4章 脳損傷とその回復	脳血管障害後の機能回復の特徴
第5週目	第5章 脳血管障害における医学管理	脳血管障害に対する急性期治療
第6週目	第6章 脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ	脳血管障害リハビリテーションの流れ
第7週目	第7章 脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴	脳血管障害後片麻痺患者に生じる[身体構造と機能]
第8週目	第8章 脳血管障害後片麻痺患者に対する評価(1)	脳血管障害患者を理解する前に ICFに基づく障害理解
第9週目	第9章 脳血管障害片麻痺患者に対する評価(2)	評価の実際 姿勢分析
第10週目	第10章 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(1)	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング概略
第11週目	第11章 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(2)	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 寝返り・起き上がり
第12週目	第12章 脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(3)	歩行障害概要
第13週目	第13章 脳血管障害における合併症	脳血管障害による肩関節痛
第14週目	第14章 高次脳機能障害と理学療法	高次脳機能障害
第15週目	第15章 脳血管障害における理学療法の実際	症例から学ぶ理学療法の実際
備考	日程については、講義の進捗度合いによって、上記予定を変更することがあります。	

令和2年度 シラバス

科目名	骨関節疾患理学療法学 演習 (30)時間 前期 第I学科2学年 講師 久保 けい子
実務経験	理学療法士として12年以上の実務経験あり
到達目標	整形外科疾患に対する理解と適切な理学療法プログラムを立案できる
履修上の注意	各講義後に必ず見直しをすること 各講義時間前確認テストあり(前回講義分)
成績評価方法	筆記試験(90%) 小テスト(10%) 出席状況・態度(減点加算あり)
教科書	運動器障害 理学療法学 I / II
参考書	適宜プリント

週 数	項 目	授業内容
第1週目	組織再生・修復 1・2章	組織再生と修復の理解 炎症の評価と理学療法実施上の注意点を理解する
第2週目	骨折と脱臼総論～治療 3・4章	骨折と脱臼の病態・合併症の理解 骨折のリスク管理とADL指導の理解
第3週目	高齢者の骨折 5～7章★	高齢者の骨折における発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第4週目	変形性股・膝関節症 8～11章★	変形性関節症の病態・各病期の理解 病気に応じた適切な治療の理解
第5週目	関節リウマチ 12・13章	RA・特定疾患の理解と評価・治療・ADL指導とリスク管理の理解
第6週目	末梢神経障害 14・15章	病態・原因・神経走向・評価～治療の理解
第7週目	I部小テストとまとめ	★印を中心にI部テキストのおさらい テスト
第8週目	頸部疾患総論～治療 16・17章★	頸部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第9週目	腰部疾患総論～治療 18・19章★	腰部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第10週目	脊椎疾患総論～治療 20・21章	術式の理解と術式に応じた評価～治療・リスク管理・禁忌事項の理解
第11週目	肩関節疾患総論～治療 22～25章★	肩関節疾患における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第12週目	膝靭帯半月板損傷総論～治療 26～28章	靭帯半月板損傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第13週目	捻挫と肉離れ総論～治療 29・30章	スポーツ外傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第14週目	II部小テストとまとめ	★印を中心にII部テキストのおさらい テスト
第15週目	I・II まとめ	テスト対策 国家試験対策
備考	変更の可能性あり	

令和2年度 シラバス

科目名	神経・筋疾患理学療法学	演習	(30)時間	前期	第I学科2学年	講師	西村 正
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	主要な神経筋疾患の障害特性を理解し、その障害評価と機能・能力障害に対する運動療法を理解する。						
履修上の注意	講義を中心に、必要に応じて実技を実施する。						
成績評価方法	課題(小テストなど) 試験(60%) 出席状況(減点⇒欠席:2点 遅刻:1点) によって決定する						
教科書	系統理学療法学 神経障害系理学療法学(医歯薬出版)						
参考書	特になし						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	神経・筋疾患について 概論	神経系、障害部位について
第2週目	変性疾患(ALS)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第3週目	変性疾患(パーキンソン病)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第4週目	小脳疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第5週目	脱髄疾患 (多発性硬化症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第6週目	脱髄疾患 (ギランバレー症候群)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第7週目	末梢神経疾患 (ニューロパチー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第8週目	神経筋接合部疾 (重症筋無力症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第9週目	まとめテスト	中間試験
第10週目	筋疾患(筋ジストロフィー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第11週目	筋疾患 (多発性筋炎、皮膚筋炎)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第12週目	脳血管障害	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第13週目	脳血管障害	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第14週目	その他疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解。
第15週目	まとめ	実技
備考	内容変更の可能性あり。	

令和2年度 シラバス

科目名	脊髄損傷理学療法学	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	音頭 善勝
実務経験	理学療法士として20年以上の実務経験あり						
到達目標	脊髄の損傷レベルにおける残存機能や可能なADL、必要な評価・治療について説明できる。						
履修上の注意	脊髄及び脊髄神経に関する解剖を復習しておくこと。						
成績評価方法	定期試験80%、小テスト・授業態度20%						
教科書	脊髄損傷の理学療法 第3版 医歯薬出版						
参考書	国試及び模試の過去問題						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	脊髄損傷の基礎知識	脊髄の解剖
第2週目		解剖の復習、脊髄損傷の原因、死亡率と死因
第3週目	理学療法評価	概説、不全損傷と完全損傷
第4週目		自律神経、痙性麻痺、褥瘡、座位バランス
第5週目	呼吸理学療法	急性期の理学療法、人工呼吸器による呼吸管理、呼吸の評価、呼吸練習
第6週目		体位排痰法、吸引操作、胸郭拡張練習、Skin Lolling
第7週目	理学療法(治療指導)	治療指導、理学療法の目的、理学療法プログラム
第8週目		急性期における理学療法、回復初期～後期における理学療法
第9週目		回復期後の理学療法、手術療法後の理学療法プログラム
第10週目	車椅子処方と練習	練習と開始時期、処方について
第11週目	精神心理と排尿・尿路障害、性機能障害	障害受容とその過程に及ぼす心理的な要因 排尿の生理と管理、性機能障害と援助
第12週目	スポーツ	障害区分と主なスポーツ
第13週目	自動車運転	運転に必要な条件、運転操作と補助装置、注意点等
第14週目	復習・試験対策	解剖～治療までを復習する。 定期試験を想定した問題を行い、解説を行う。
第15週目	復習・試験対策	解剖～治療までを復習する。 定期試験を想定した問題を行い、解説を行う。
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	小児疾患理学療法学	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	出口 修平
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	小児疾患の理解を深め、臨床像をイメージする。代表疾患に関しては国家試験レベルの知識を学ぶ。						
履修上の注意	メリハリのある授業にします、講義は静かに聞いてください。活発なディスカッションを行いましょう。						
成績評価方法	学科試験100%						
教科書	イラストでわかる小児理学療法学						
参考書	脳性麻痺児の家庭療育						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	オリエンテーション	自己紹介
第2週目	小児疾患について	代表的疾患について学ぼう
第3週目	脳性麻痺総論	PVL、頭部外傷など
第4週目	脳性麻痺 I	痙直型タイプ(四肢麻痺)
第5週目	脳性麻痺 II	痙直型タイプ(両麻痺)
第6週目	脳性麻痺 III	アトーゼ型
第7週目	脳性麻痺 IV	片麻痺、頭部外傷による脳障害
第8週目	ダウン症	ファロー4徴候
第9週目	筋ジストロフィー I	デシャンヌ型、仮性肥大など
第10週目	筋ジストロフィー II	福山型、厚労省ステージ分類、その他
第11週目	二分脊椎	脊髄髄膜留
第12週目	重度呼吸障害児	ポジショニング、呼吸リハ
第13週目	染色体異常	奇形や知的障害について
第14週目	動作分析 I	立ち上がり、トランスファー
第15週目	動作分析 II	歩行分析
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	呼吸障害理学療法学	演習	(30)時間	後期	第1学科2学年	講師	中野 友喜
実務経験	理学療法士として11年以上の実務経験あり						
到達目標	呼吸・代謝障害の病態・障害把握とリハビリテーション(特に理学療法)が遂行できること。						
履修上の注意	教科書やプリントの予習・復習をしっかりと行い、体の中で起こっている事象をイメージして学習する事。						
成績評価方法	筆記試験、小テスト、受講態度を総合的に評価						
教科書	内部傷害のリハビリテーション						
参考書	本・雑誌から関連資料の収集をし勉強しておく。						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	運動医学	テキストとプリントおよびスライドを使い、主に生理学的な要素から理解できるように教授する。復讐を兼ねて実施
第2週目	運動医学	テキストとプリントおよびスライドを使い、主に生理学的な要素から理解できるように教授する。復讐を兼ねて実施
第3週目	肺の構造と機能(理論と実技)	主に肺の模型と身体を使い、肺の構造と機能を教授する。
第4週目	運動負荷試験	テキストとプリントおよびスライドを使い、運動負荷試験の方法と結果の判読を教授する。
第5週目	呼吸機能検査	テキストとプリントおよびスライドを使い、基本と応用検査および日常の運動能力検査を教授する。
第6週目	呼吸不全とそれを来たす疾患	呼吸不全および閉塞性と拘束性疾患の病態を教授する。
第7週目	呼吸リハビリテーション(理論)	テキストとプリントおよびスライドを使い、呼吸理学療法の基本的訓練からレクリエーションまで教授する。
第8週目	呼吸リハビリテーション(理論)	テキストとプリントおよびスライドを使い、呼吸理学療法の基本的訓練からレクリエーションまで教授する。
第9週目	呼吸リハビリテーション(実技)	呼吸理学療法の基本・応用訓練の実技を教授する。
第10週目	呼吸リハビリテーション(実技)	呼吸介助法の実技を教授する。
第11週目	糖尿病の病態	テキストとプリントおよびスライドを使い、糖尿病の病態と症状を教授する。
第12週目	糖尿病の評価	テキストとプリントおよびスライドを使い、糖尿病の評価を教授する。
第13週目	糖尿病のリハビリテーション	テキストとプリントおよびスライドを使い、糖尿病のリハビリテーションを教授する。
第14週目	脂質異常症のリハビリテーション	テキストとプリントおよびスライドを使い、脂質異常症の病態と治療を教授する。
第15週目	腎臓のリハビリテーション	テキストとプリントおよびスライドを使い、腎臓の病態とリハビリテーションを教授する。
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	心・末梢循環理学療法学	演習	(30)時間	前期	第I学科2学年	講師	中野 友喜
実務経験	理学療法士として11年以上の実務経験あり						
到達目標	病態および障害が把握でき、それに関わる評価から治療、特に理学療法的プロセスが遂行できること						
履修上の注意	心・末梢循環の解剖・生理学を復習しておくこと。体の中で起こっている事象をイメージして学習すること						
成績評価方法	筆記試験(100%)						
教科書	内部障害のリハビリテーション						
参考書	本科目名の内容が記載されているその他の教科書およびスライド原稿に関わる配布資料						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	循環器系に関わる運動生理学	スライドを用いて循環器系における運動生理学の概要を教授する
第2週目	心機能循環動態の評価	スライドを用いて心機能循環動態とその評価を教授する
第3週目	心疾患およびそれに関わる障害	主として心筋梗塞の病態とそれに関わる生活機能における障害を教授する
第4週目	心疾患およびそれに関わる障害	主として心不全の病態とそれに関わる生活機能における障害を教授する
第5週目	運動負荷試験	スライドおよび配布資料を用いて診かたを教授する
第6週目	心電図	スライドを用いて運動負荷試験、モニター心電図、12誘導心電図および家庭用心電図を教授する
第7週目	各種不整脈とその発生機序	スライドを用いて刺激伝導系および各種不整脈と発生機序を教授する
第8週目	心疾患のリハビリテーション	包括的リハビリテーションの概要、急性期・回復期・維持期各相の概要を教授する
第9週目	心疾患のリハビリテーション	急性期のリハビリテーション、評価と運動療法を教授する
第10週目	心疾患のリハビリテーション	回復期・維持期のリハビリテーション、評価と運動療法を教授する
第11週目	高血圧の理学療法	高血圧の病態と運動療法を教授する
第12週目	がんのリハビリテーション	がんの臨床的特徴とリハビリテーションの意義
第13週目	末梢循環障害	末梢循環障害の病態と症状および評価を教授する
第14週目	末梢循環障害	動脈系の理学療法を教授する
第15週目	末梢循環障害	静脈系、リンパ系の理学療法を教授する
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	高齢者理学療法学	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり						
到達目標	高齢者の身体的特性と疾患について学ぶ						
履修上の注意	座学と実技						
成績評価方法	筆記試験(5割)、個人発表(5割)						
教科書	高齢者の機能障害に対する運動療法 文光堂						
参考書	リハビリテーション医学(医歯薬出版)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	高齢者の4大骨折	オリエンテーション・大腿骨頸部骨折
第2週目	高齢者の4大骨折	上腕骨近位端骨折・橈骨遠位端骨折・脊椎椎体圧迫骨折
第3週目	廃用症候群	廃用症候群の主な要因と症候
第4週目	高次脳機能障害	記憶障害、失行・失認・注意障害・遂行機能障害・認知症
第5週目	高齢者の認知機能	高齢者の認知的側面からみた運動介入
第6週目	高齢者の認知機能	二重課題(trail walking test・ストループ課題)
第7週目	高齢者の運動機能	筋機能・持久力・バランス能力の評価
第8週目	高齢者の運動機能	移動能力・敏捷能力・筋パワーの評価
第9週目	高齢者の身体特性	加齢による運動能力の変化
第10週目	高齢者の身体特性	加齢による障害(フレイル・サルコペニア・老年症候群)
第11週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第12週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第13週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第14週目	個人発表	各テーマについて調べ発表する。
第15週目	まとめ	試験対策
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	スポーツ障害理学療法学	演習	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	門脇 辰弥
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり						
到達目標	スポーツ理学療法の概要を理解し、代表的なスポーツ外傷・障害とその理学療法を学習する。						
履修上の注意	居眠りをしないこと						
成績評価方法	学科試験、中間試験、出席状況						
教科書	スポーツ理学療法学(メジカルビュー社)						
参考書	PTマニュアル スポーツ理学療法 (医歯薬出版株式会社)						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	スポーツ理学療法とは スポーツ外傷・障害の概念	スポーツ理学療法の内容・活動分野、スポーツ外傷と障害の違い、 外傷の特徴、発生機序など
第2週目	リハビリテーションの基礎知識	スポーツ外傷・障害の多発部位や身体に与える影響など、外傷・障害 の基礎知識やRICE処置
第3週目	測定・評価・治療	評価・治療を行うための戦略・治療プロセス～形態測定
第4週目	測定・評価・治療	疼痛・アライメント・関節可動域
第5週目	測定・評価・治療	筋力・テーピング・スポーツマッサージ
第6週目	スポーツ理学療法各論	頸椎・肩関節
第7週目	スポーツ理学療法各論	肘関節・手関節・手指
第8週目	スポーツ理学療法各論	腰椎
第9週目	スポーツ理学療法各論	骨盤・股関節
第10週目	スポーツ理学療法各論	膝関節
第11週目	スポーツ理学療法各論	下腿・足部
第12週目	スポーツ理学療法各論	内科的障害
第13週目	スポーツ理学療法各論	投球動作とは
第14週目	国家試験問題	国家試験問題
第15週目	まとめ	定期試験前の復習および確認
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	生活環境学	講義	(30)時間	後期	第 I 学科2学年	講 師	吉田 弘利
実務経験	理学療法士として10年以上の実務経験あり						
到達目標	理学療法士に必要な環境整備の知識を習得する。						
履修上の注意	出席点を重視します。(欠席につき-10点)						
成績評価方法	本試験(50%)+[提出物、小テスト、出席、授業姿勢](50%)						
教科書	生活環境学テキスト						
参考書	プリント配布						

週 数	項 目	授業内容
第1週目	第1章	生活環境学の考え方
第2週目	第2章	日本における生活環境の特徴と課題
第3週目	第3章	生活環境整備に関する法的制度
第4週目	第4章	生活環境整備の進め方
第5週目	第5章	生活環境整備の基本①
第6週目	第6章	生活環境整備の基本②
第7週目	第7章	玄関・アプローチの環境整備
第8週目	第8章	廊下・階段の環境整備
第9週目	第9章	トイレの環境整備
第10週目	第10章	浴室・脱衣室の環境整備
第11週目	第11章	台所・食堂の環境整備
第12週目	第12章	居間・寝室の環境整備
第13週目	第13章	疾患別環境整備①
第14週目	第14章	疾患別環境整備②
第15週目	第15章	基本的な建築図面の読み方・書き方
備考		

令和2年度 シラバス

科目名	地域理学療法学	講義	(30)時間	後期	第I学科2学年	講師	橋本 貴之
実務経験	理学療法士として11年以上の実務経験あり						
到達目標	地域における高齢者や障害者の現状を理解する。理学療法士の地域での役割とその可能性について学習する。						
履修上の注意	講義の進行はシラバスと異なる場合もあります。地域において理学療法がどのような事に寄与できるか考えながら授業を履修して下さい。						
成績評価方法	グループワーク態度、課題及び出席状況、期末レポート課題						
教科書	地域理学療法学 印刷物配布						
参考書	印刷物配布						

週数	項目	授業内容
第1週	地域リハビリテーション 総論	地域リハビリテーション 総論
第2週	地域リハビリテーション 総論	地域リハビリテーションの概念
第3週	地域リハビリテーション 総論	地域理学療法の概念、協働と連携
第4週	地域リハビリテーション 総論	地域理学療法の概念、協働と連携
第5週	地域リハビリテーション 総論	地域理学療法の概念、協働と連携
第6週	地域理学療法の対象及び関連制度	地域理学療法の対象者
第7週	地域理学療法の対象及び関連制度	地域における社会資源
第8週	介護保険下での地域理学療法	要介護認定とケアマネジメント
第9週	介護保険下での地域理学療法	要介護認定とケアマネジメント
第10週	在宅理学療法	在宅医療に関わる知識
第11週	在宅理学療法	健康状態の評価とリスク管理
第12週	在宅理学療法	動作指導と介助方法の指導
第13週	症例検討・演習課題	施設入所例
第14週	症例検討・演習課題	在宅例・在宅復帰例
第15週	総括	総括
備考		